

大津町地域通貨「水水」の交付が始まります

皆さん一人ひとりの手により、大津町をさらに元気なまちとしていくことを目指す「元気大津づくり活動事業」は、この4月で3年目を迎えます。4月からは、平成21年度中に行われた“元気大津づくり活動”に対する地域通貨「水水」の交付が始まります。

地域通貨「水水」の交付申請手続き

- 申請窓口 役場企画課 地域づくり推進係
- 申請期間 4月5日(月)～5月31日(月)
(土・日曜日、祝日は除く)
午前8時30分～午後5時15分
- 申請に必要なもの
 - 平成21年度元気大津づくり活動報告書
 - 申請に来る人の印かん
 - 代理の人(家族以外の人)が申請される場合は「委任状」



活動報告書により、1週間あたり15分以上の活動を1回=25水水として計算します。「水水」は、1単位が100水水のため、100水水未満は切り捨てます。

地域通貨「水水」協力店一覧 (3月19日現在・届出順)

店名	電話番号
味の天津屋 (大津)	☎(293)4759
インテリア白川 (大津)	☎(293)2366
ビューティーコロナ (大津)	☎(293)2126
JA菊池 とれたて市場 (大津)	☎(293)3294
村上写真館 (大津)	☎(293)2207
大津温泉 岩戸の里 (外牧)	☎(294)2626
よりみち (大津)	☎(293)1147
ギャラリー&カフェ 水車物語 (室)	☎(293)2025
西洋堂 (大津)	☎(293)2741

地域通貨「水水」の使い方は、次の3つの方法があります。

1 町内で自由に流通

- お手伝いをしてもらったときなどの感謝の気持ちとして「水水」を渡すことができます。
- 地域通貨協力店で「水水」と引き換えに特典を受けることができます。
※特典内容は各店舗で異なりますので、ご注意ください。

2 町の施設の使用料や手数料

- 町指定ゴミ袋との交換
※役場のみ交換可能です。一般小売店での「水水」との交換はできません。
- 町が発行する証明書の交付手数料
(住民票の写し、印鑑証明、所得証明、納税証明など)
- 大津町総合体育館トレーニングルームの使用料
※回数券には使えません。

3 登録住民団体への寄付

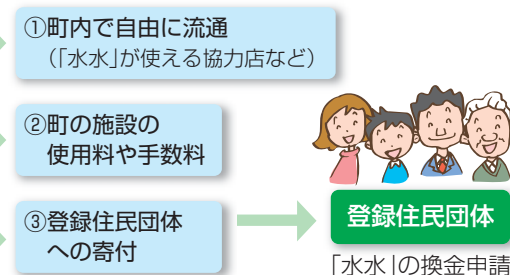
- 「水水」を寄付することで、住民団体の活動を応援することができます。
(登録団体は、自治会、老人会、NPO、ボランティア団体など19団体)

※登録団体以外は、お金と交換することや、お金と同様に使うことはできません。

「元気大津づくり活動事業の流れ」



「水水」の交付申請
(翌年度の4月～5月)



参加登録者 **地域通貨協力店** **登録住民団体**

随時募集中です!

地域通貨「水水」を手に入れるには、事前に元気大津づくり活動への参加登録が必要です。申請お待ちしております。

●申し込み・問い合わせ 役場企画課 地域づくり推進係 ☎(293)3118

「大津まちおこし大学」学科生の平成21年度の活動

地域おこし学科

次世代のまちづくりを担う人材(リーダー)を育成する目的で設立された「地域おこし学科」では、町内の4行政区(大津東、森、下陣内、杉上)から推薦された4人の学科生が中心となり、地域資源マップの作成を行っています。モデル地域を陣内・森地区周辺に決定し、タウンウォッチングをして、身近なところに今まで気づかなかった素晴らしい資源を再確認し、その後、ワークショップを重ね、マップに掲載する18の地域資源を決定しました。今後、資源の写真、説明文に地区のキャッチフレーズや散策コース、地域独自の催しや口コミ情報などを加え、地域の個性や誇り、愛着を含めたマップづくりを目指します。今年度、マップの完成を目指しますが、小学校の子どもたちに授業などで活用してもらいたいと考えています。



タウンウォッチング(江藤家住宅)



タウンウォッチング(玉岡城跡)



キャッチフレーズや散策コースの検討

文化振興学科

「大津町のいいところを発見しよう」と学科生2人で活動している文化振興学科では、学科生が考えた「大津のいいところ」を30秒間のCMにまとめ、熊本朝日放送主催の「ふるさとCM大賞」に2作品を応募しました。1つは「彦しゃん水車」というタイトルで、現在も現役で精米・製粉をしている町唯一の水車をテーマにした作品と、もう1つは「やっぱり大津が一番たい!」というタイトルで、学科生が選んだ大津町のいいところを、農家のお父さんがバイクで見て回り町をPRする作品です。2月22日に審査・表彰式が行われ、残念ながら受賞は逃しましたが、学科生は早くも次の作品づくりに意欲を見せています。2作品はホームページに公開していますので、ぜひご覧ください。

作品公開中!

<http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>



表彰式でインタビューを受ける学科生



学校・行政・一般の部で48作品の応募があり、どれもレベルの高い作品でした